

生ごみカラットで温暖化対策しませんか

生ごみの水分減量 と たい肥づくり

生ごみの水分を取って
可燃ごみに出すと

⇒

- ごみ袋が軽くなる
- 集積所が衛生的になる
- 悪臭が低減する

⇒

一人1日卵一個分(約50㍓)の水を減らすだけで、一年間で約1万4千㍓のごみ減量となります。これは収集車約9千台分に相当します

世田谷区(H23年)資料

生ごみの約80%は水分であるため、家庭で生ごみの水分を減らすことができればその減量効果は絶大です
浅い受皿とカラットで水分を減らし腐敗を防ぎましょう

水切りとエネルギー

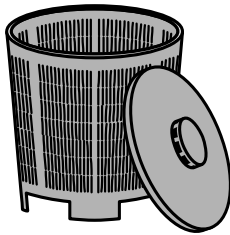
“生ごみの水切りは、エネルギーを創り出す行動です”

札幌市の清掃工場では、ごみが燃える際の熱で発電しています。生ごみの水分が札幌市全体で1割減ると一般家庭1500軒分の年間消費分に相当する電力が生まれます。未来を明るくするために、キッチンで発電(水切り)しませんか。

札幌市(H26年)ホームページより

- 身近でできる温暖化対策
- 省エネルギー対策！ 節税対策！

半乾燥生ごみ
軽くて
さわやか！



高さ28.5㍓ 直径27㍓ 約8㍓

■ 生ごみカラットは

“濡らさない 水切りした”生ごみを風通しの良い状態で半乾燥させる容器です
腐敗をふせぎ悪臭を低減します
カラットで水分を減らし、悪臭を抑えましょう
頒布価格：850円(浅い受皿と説明書付き 消費税なし) 送料別途

カラットを使って良かったことは

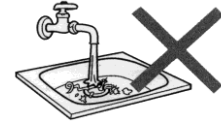
⇒ **生ごみが臭くならないのです！**

生ごみを気持ちよく扱うためのポイント！

その1 生ごみは濡らさない

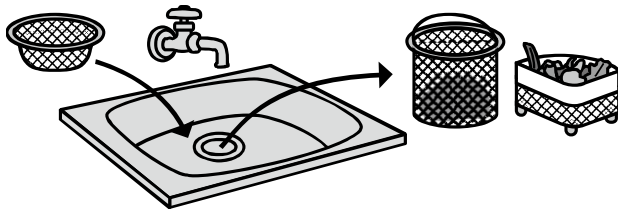
簡単！生ごみの水分減量－濡らさない！！

- ・シンクの中に生ごみを落とさない。使うものだけ洗う



- ・排水口の深い受皿は浅い受皿に取り換え、深い受皿や三角コーナーは水道水のかからないシンクの上に置き、生ごみの仮置きに使う

○全国ネットが提案する方法



100 ㍓ → 69 ㍓ 31 ㍓の水分減量

今までの方法



シンクに生ごみを落とし、シンクの中の深い受皿や三角コーナーに生ごみを溜める

100 ㍓ → 125 ㍓ 25 ㍓の増量

- ・水分を取った生ごみは通気式容器カラットに入れ風乾する

100 ㍓ → 36.4 ㍓ 63.6 ㍓の水分減量（平均）

一財日本土壌協会調べ

その2 扱いにくい生ごみは分別・処理

扱いにくい生ごみは分別して処理する

- ・魚や肉など動物性たんぱく質の生ごみ（煮たものも生のものも）はポリ袋に入れ、収集の日まで冷蔵庫で保管し、可燃ごみに出す

※公衆衛生上、庭や畑に直接埋めることはお奨めしません

たい肥化したい人は、6頁をご覧ください

- ・浅い受皿に溜った茶殻など細かい生ごみやスイカ、メロン、熟し柿の皮など柔らかい果物の皮やカボチャの芯は 細かく刻めば簡単にたい肥化できます

※方法は4頁をご覧ください

※可燃ごみに出す場合は、水気をよく切り新聞紙に包みカラットに入れ風乾

※湿度が高いときはカラットに入れても乾燥しないので、可燃ごみの収集に出すとよいでしょう

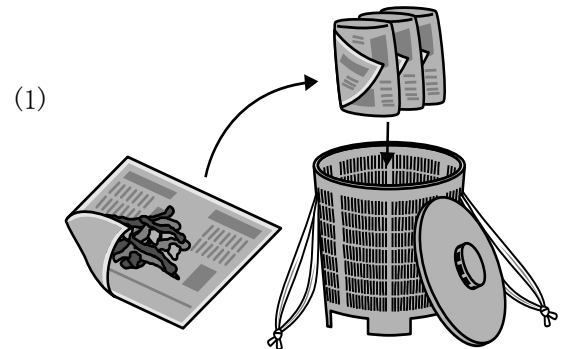
■ ■ ■ New 生ごみカラットの使い方 ■ ■ ■

- ・用意するもの：新聞紙
- ・準備
 - ・カラットの両脇にヒモをとおす
 - ・新聞紙 1/8 枚のものをまとめて切っておく。電話帳の頁を 1 枚ごと使うのもよい
 - ・排水口の深い受皿を浅い受皿にかえる
 - ・深い受皿や三角コーナーは、水道水がかかからぬよう流し台の上にあげる

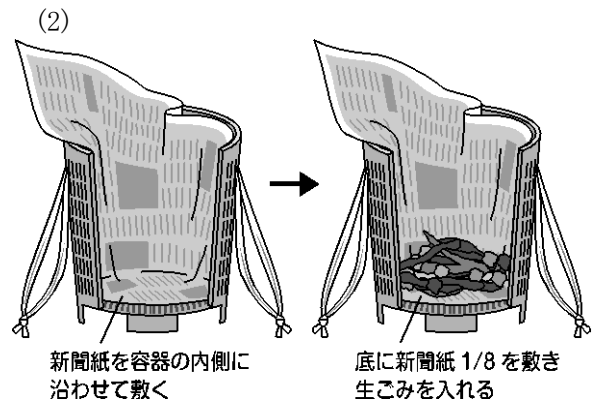
※魚や肉など動物性たんぱく質の生ごみはポリ袋に入れ冷蔵庫で保管し可燃ごみの収集に出す

A 可燃ごみに出す (2つの方法があります)

- (1) ・“濡らさない 水切り” し、深い受皿等に仮置きした生ごみを新聞紙で包み、カラットに立てかけて入れる。風通しを良くするため詰め込み過ぎない
- ・包みが多い時は2つのカラットに分けて入れると良い
 - ・コバエの出る時期にお奨めの方法です



- (2) ・新聞紙を*1のように折りたたみ、カラットの内側に沿わせて敷く。底に新聞紙 1/8 枚を重ねて敷く
- ・そこへ“濡らさない 水切り” した生ごみを入れる
 - ・食卓で使ったティッシュペーパーなども入れる
 - ・スイカやメロン は新聞紙に包んで入れたほうが良い



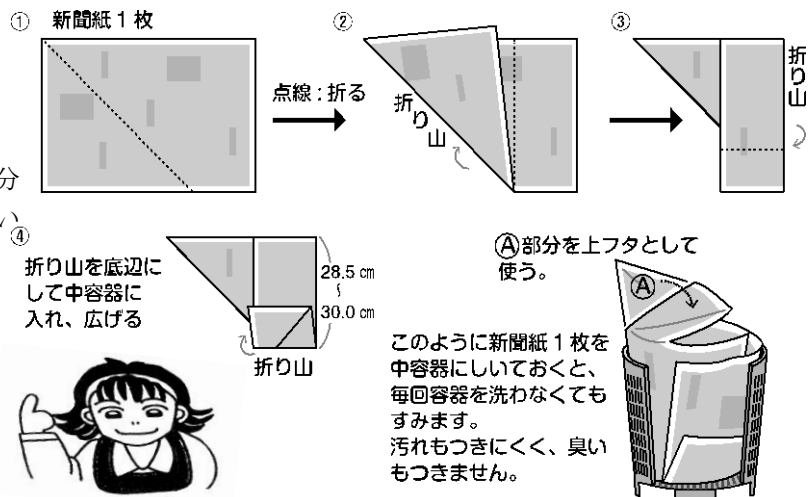
(1) (2)の方法で生ごみを保管する

(2)を可燃ごみに出す時、可燃ごみの袋を開けカラットを下に向け軽く振ると、底辺に敷いた新聞紙 1/8 枚は生ごみと共に可燃ごみの袋に入る
沿わせて敷いた新聞紙は何度でも使う

* 1 折りたたみ方 (新聞紙が破れにくい)

新聞紙使用のメリット

- ・新聞紙を容器に沿わせ敷いておくと容器が汚れにくく洗う手間が省ける
- ・生ごみのおいが容器につかない
- ・新聞紙が生ごみの水分を吸着し、水分が外気に発散されるので乾燥がはやい
- ・新しい新聞紙は撥水性があり水分吸着効果は低い。新聞紙は少しくたびれたほうが水分を吸着する
- ・カラットに沿わせて敷いた新聞紙は丁寧に扱い何度でも使う
- ・コバエ対策にも効果的

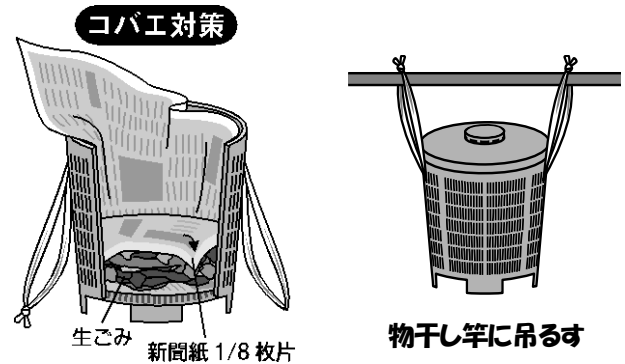


コバエ対策

新聞紙 1/8 枚をカラット内の生ごみの上に軽く載せ四隅を下へ折り込むと羽化したコバエはほとんど出てこない

保管場所

エアコンの室外機のそばや屋外がよい。庭や庭に続くベランダの床面に直接置くとアリ等虫がやってくる。物干し竿に吊り下げると虫対策となり早く乾燥する



B ベランダでできる—早く分解するものだけたい肥化する場合

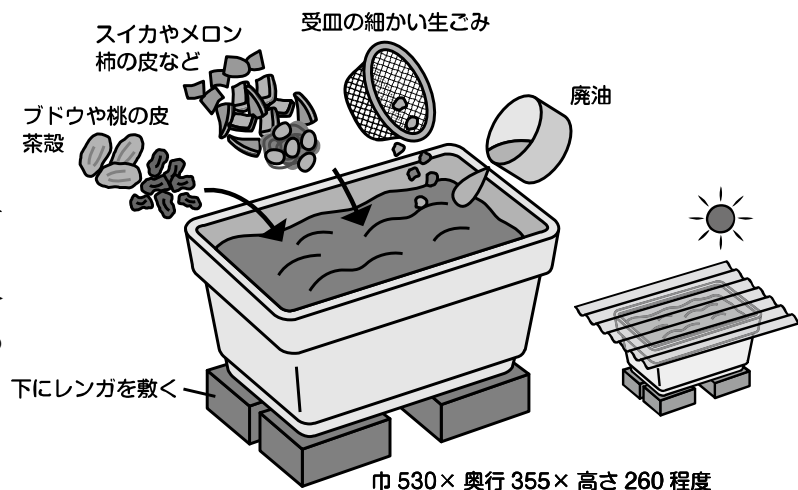
※浅い受皿の細かい生ごみやスイカ、メロンなど柔らかい果物の皮は、プランター（植木鉢）や段ボール箱を一つ用意すれば簡単にたい肥化できます。可燃ごみに出す人も挑戦してみませんか？

・用意するもの：

プランター（や段ボール箱）
土（植木鉢で使い終えた土や黒土）
腐葉土 ポリカーボネイトの波板等

・準備：

- レンガを敷き、その上にプランターを設置
- 基材（土と腐葉土を5:4程度の割合でよく混ぜ合わせたもの）を容器の8分目程度入れる



・方法：

- スイカやメロン、熟し柿など柔らかい果物の皮やカボチャの芯などは細かく刻む
- 浅い受け皿に溜った茶ガラや味噌汁の具、ご飯粒などは水切りする
- これらをプランターに投入し、移植ゴテで基材とよく混ぜ、基材で覆う
- 雨やハエ、ネズミ対策と保湿のため、ポリカーボネイトの波板などで覆い、太陽光にしっかり当てプランター全体を温める
- 2～3日に1回程度、板を取り、基材をよく切り返し空気を入れ酸素を補うと分解が進む
- 結露が多い場合、基材の上に新聞紙 1/2 枚程度を被せ新聞紙に水分を吸着させ、基材の含水率が60%以上にならないよう注意する（含水率60%とは、基材を強く握って水気を感じる程度）
- 基材が水分過多にならないよう、晴れた日には板を取り太陽光に当て、基材を底からよく切り返し空気を入れ水分を発散させる。段ボール箱の場合は、雨に当てないようにする
- 虫が出た場合、基材に米ぬかを多く混ぜ込み、基材全体をよく切り返し、フタをして太陽光に当て高温にすると、微生物は活性化し虫は分解される

※ 雨や湿度の高い日が続くときは、カラットに入れると生ごみの含水率はむしろ高くなるため、水切りし仮置きした生ごみを新聞紙に包み、可燃ごみに出すと良いでしょう

※ 動物性たんぱく質の生ごみをたい肥化したい人は6頁をごらん下さい

※ コンポスト容器の場合、容器の中が嫌気状態にならないよう、発生する水蒸気が結露しないよう注意

C たい肥原料として自治体の収集に出す場合

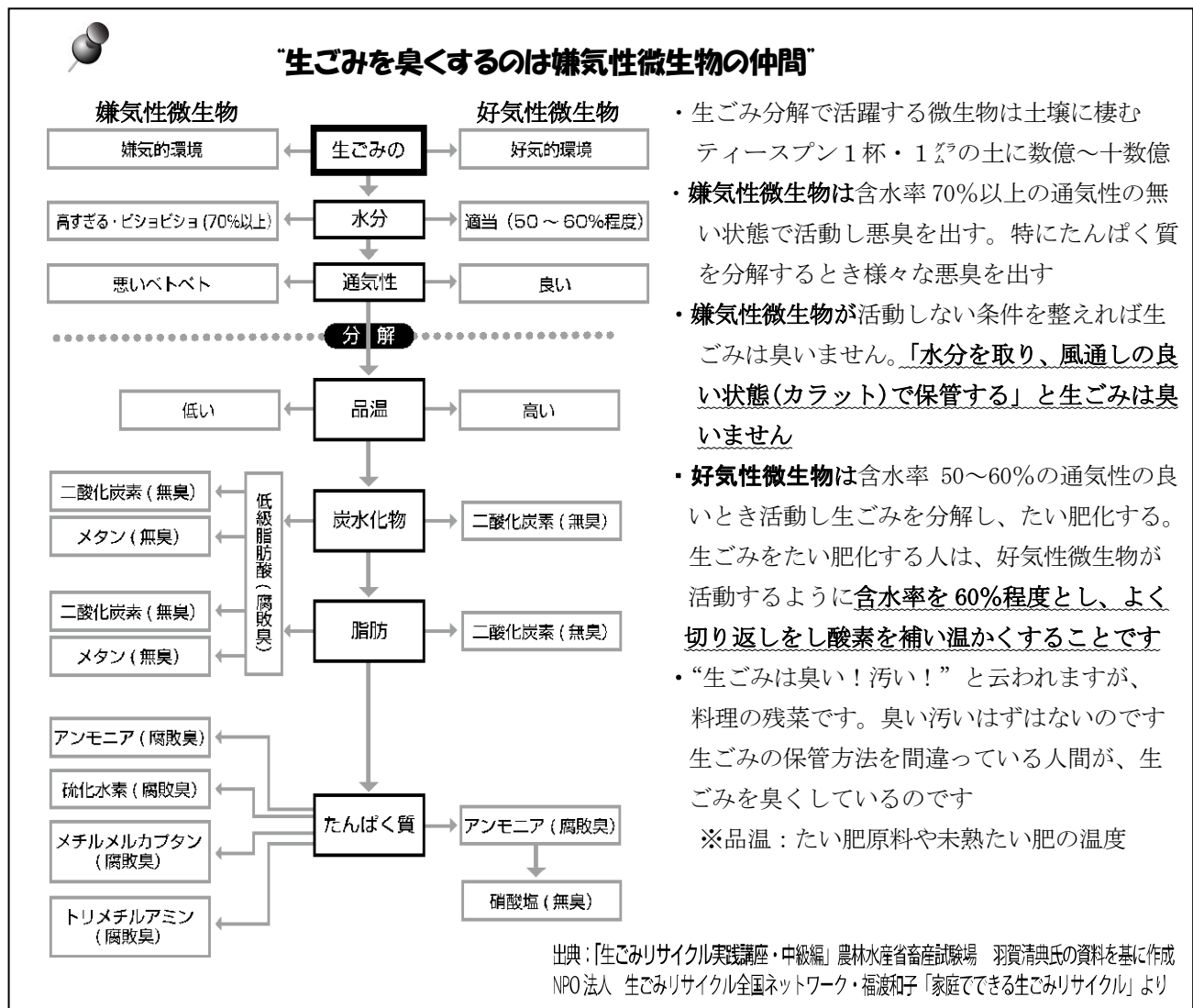
カラットで風乾したものを可燃ごみと同じように集積所に出す。排出方法は自治体により違うので、自治体の指示に従ってください

たい肥原料で入れてはいけないもの

爪楊枝やラップ タバコの吸殻 くさった生ごみ
魚類や肉類 プラスチック製品 ガラスの破片
豆電池 ゴム手袋 薬 犬猫のフンなど

D 庭や畑、コンポスト容器でたい肥化する場合

- ・新聞紙2枚を重ねて折りたたみ（3頁の*1を参照）、カラットの内側に沿わせて敷く
- ・カラットに土や腐葉土を半分程度入れ、細かく刻んだ生ごみを混ぜ入れる。土を薄く敷きサンドイッチ状に土、生ごみ、土、生ごみと入れてゆくのもよい。あれば米ぬかを混ぜ込むとよい
- ・風通しの良い所で保管し、たまればお天気の良い日に庭や畑、コンポスト容器へ投入する
- ・庭や畑に深さ40～50㎝の広めの穴を掘り半乾燥させた生ごみを投入。あれば米ぬかを加え、土と刻んだ生ごみ、米ぬかをよく混ぜ、その上を土で軽く覆う。2～3日に一回程度切り返すとよい
- ・次の生ごみを入れる前にスコップでよく切り返し酸素を補う。繰り返して穴がいっぱいになったらその上を土で軽く覆い、分解を待つ。時々スコップで切返しをして空気を入れ酸素を補うと早く分解する。その間、もう一つの穴を掘り、同様に生ごみを入れてゆく



“生ごみカラット”の使い方 Q & A

Q：沖縄の夏は、スコールのように急に雨が降ることがあります。どうすればよいでしょうか。

A：フタをしておけば、雨が降っても外置きは大丈夫ですが、乾燥した生ごみが大気中の水分を吸収します。雨が続く時は、屋内の涼しい処に置きましょう。

Q：湿度が高い日は、乾燥していた生ごみがベタっとしてきます。どうすればよいでしょう。

A：湿度が高いと乾燥していた生ごみが大気中の水分を吸収し含水率が高くなり、ベタっとしてきます。湿度が非常に高いときは、カラットに入れ外置きすると生ごみの含水率はむしろ高くなるので、仮置きした生ごみは新聞紙で包み可燃ごみの袋に入れ、収集日に出したほうが良いでしょう。

Q：夏場、スイカの皮を入れていたらベタベタになり、コバエが集まり、アリもやってきました。スイカの皮は、どのように処理すれば良いのでしょうか。

A：スイカやメロンの皮はとても厄介です。湿度が高い時は干しても乾燥せず、いつまでもべたべたしています。細かく刻み、プランターや植木鉢の基材に浅く埋め（4頁～5頁を参照）、太陽光にしっかり当てれば夏季は4～5日で分解します。細かく刻んだスイカを基材と良く混ぜ、上に軽く基材をかぶせ、時々切り返し酸素を補うだけです。

Q：カラットに腐葉土と米ぬかを入れ、生ごみの堆肥づくりをしたいのですが、その場合、魚のアラや焼き魚の骨など入れても良いのでしょうか。

A：カラットに腐葉土と米ぬかを混ぜ入れ刻んだ生ごみを入れていけば、臭いもなく分解が進み扱い易いのですが、容器が小さいので、ある程度分解が進めば土壌へ還すなり、容器等へ投入しないと、日々出る生ごみをカラットの中でたい肥化しきれません。なお、カラットは通気性があるので、カラットに動物性タンパク質を入れると必ず臭いをかぎつけ、ハエやネズミ、ネコ、カラス、犬がやってきますので、公衆衛生上からもカラットには入れないで下さい。ネコやネズミが掘り返さないよう、土中深く埋め植木鉢などかぶせておく人もいますがモグラがやってきて、畑を荒らす場合もあります。



魚や肉など動物性たんぱく質の生ごみは容器でたい肥化

魚や肉など動物性たんぱく質の生ごみは栄養分が多いため腐敗しやすく、ハエやネズミ（衛生害虫）やネコ、カラスを誘引しがちです。生活環境を守るためにも可燃ごみに出し焼却処理することを奨めます。

しかし、家庭菜園などを愛好する人は、動物性たんぱく質の生ごみも捨てたくないと思える人も多いです。動物性たんぱく質はプランターや段ボール箱等で分解し、たい肥（土）化してから使います。

- ① たっぷりの水にアラや内臓、肉を入れ沸騰させます。煮出し汁は薄め植物にあげましょう。
- ② プランターの基材に深めに穴を掘り、煮出した魚や肉を入れ、移植ゴテで細かく刻みながら基材とよく混ぜ、上に基材を多めにかけて埋める。臭いが漏れ出ないよう容器にポリカーボネイトの波板をかぶせます。米ぬかがあれば混ぜ込むと分解が進みます。
- ③ 波板（袋）をかぶせたプランターごと太陽光に当て、できるだけ高温にすると早く分解します。
- ④ 中が酸素不足・水分過多にならないよう、1～2日に1回程度、波板（袋）をとり、切り返しをして基材に酸素を入れ、水分を発散させることがコツです。魚や肉は、一度火を通すと悪臭も低減し虫が出にくく扱い易くなります。プランターは深めで基材をたっぷり入れられるものがよいです。



生ごみカラットを使う時も、コバエ対策はお忘れなく！

生ごみにくるコバエは、主にショウジョウバエのようです。自然界では熟した果実類や樹液やそこに生育する天然の酵母をエサとします。酵母は果実や樹液を代謝しアルコール発酵を行うためショウジョウバエは酒やワイン、ビール、酢、しょうゆなどにも誘引されるようです。

腐敗動物質と云ったタイプの汚物には接触しないので病原菌の媒体になることはなく、単に人に不快感を与えるだけの不快害虫です。

湿気や露を好み、高温で梅雨や秋雨のジメジメしているとき発生しやすいので、梅雨期から初秋にかけては、台所に痛みかかった果物や野菜、飲み残しのビールやワインなど出して置かないことがコバエ対策の基本となります。

《生ごみカラット使用の際》

コバエが多く発生するのは、栽培中に果実や野菜に産みつけられた卵から孵化した幼虫が羽化する場合があります。一匹のメスは、1日に50個前後の卵を産み、卵は5日（25℃の状態）程で成虫となります。

孵化・羽化を抑えるコツは、水分をできるかぎり取ることです。コバエの発生しやすい夏季、お天気の良い時は生ごみを天日に干し、乾燥させてから、カラットで保管して下さい。

干す時間がない場合は新聞紙に包み、カラットに入れ、屋外に置きます。エアコンの室外機のそばに置くと良く乾燥します。バナナや桃、ぶどうの皮はそれだけ新聞紙片で小さく包み、羽化したコバエも出てこられないようにするのもコツです。



米ぬかは微生物の宝庫！ そして微生物の大好物！

米ぬかには、乳酸菌、酵母菌が豊富に棲んで（常在して）います。そして、米ぬかにはたんぱく質や炭水化物や脂質だけでなくミネラルやビタミンを豊富に含んでおり、それらは微生物の大好物ですから、「生ごみ分解に適した栄養条件」づくりに最適のものなのです。

土に米ぬかを加え微生物の変化を見ると、カビ、バクテリア、放線菌などいろいろな微生物が増えますが、酸素が十分に存在する好気的条件下ではカビがよく繁殖し、酸素が足りない嫌気的条件下では乳酸菌などの嫌気性微生物が繁殖します。カビは生ごみ分解の主役ですし、乳酸菌は分解初期の悪臭防止の働きをします（伊達昇まとめ）。

米ぬか（現物中）の栄養成分

有機成分 (%)		ミネラル (mg/100g)		ビタミン (mg/100g)	
たんぱく質	13.2	カリウム	1800	カロチン	26
炭水化物	38.3	リン	1500	チアミン	2.5
脂質	18.3	カルシウム	46	リボフラミン	0.5
繊維	7.8	鉄	6	ナイアシン	0.006

（四訂食品分析表より藤原俊六郎まとめ）

カラットを使う際も、米ぬかが入手できるときは、生ごみにたっぷりふりかけて下さい。

米ぬかが生ごみの水分を吸着しコバエが出にくくなります。また米ぬかに常在する乳酸菌や酵母菌が適度な水分状態で活動を始め腐敗を抑えるので、堆肥づくりに最適の状態となります。

気温の低くなる冬季、微生物はほとんど休眠状態となり活動しません。生ごみを細かく刻み、米ぬかをしっかりとまぶし、日光浴をさせてから、土壌やプランター等へ入れても、気温の低い冬季、分解はゆるやかで時間がかかります。

生ごみリサイクルがミネラルの循環をつくる

ミネラル：微量必須元素

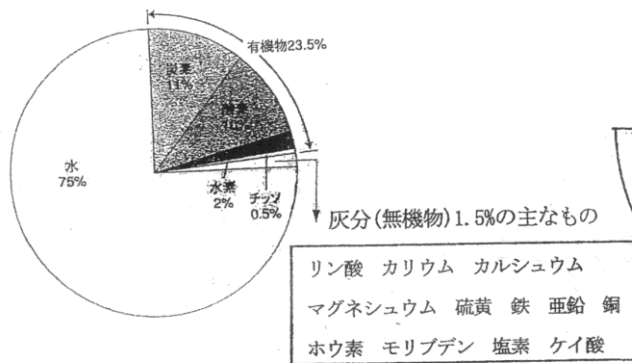
人間は食した物から栄養素を得て生命活動を維持しています。量的に多いたんぱく質、脂質、糖質（炭水化物）を三大栄養素と呼び、これにビタミンとミネラルを加え五大栄養素といいます。

植物にとっての栄養素は、量的に多いチツソ、リンサン、カリウムと、ビタミン、ミネラルです。

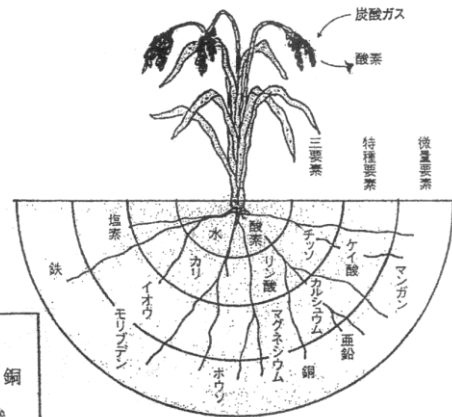
作物の必須元素

- 多量必須元素：炭素(C) 酸素(O) 水素(H) 窒素(N) リン酸(P) カリウム(K)
カルシウム(Ca) マグネシウム(Mg) 硫黄(S)
- 微量必須元素：鉄(Fe) マンガン(Mn) 銅(Cu) 亜鉛(Zn) モリブデン(Mo)
ホウ素(B) 塩素(Cl) 「土壌学・植物栄養コンポスト生産者研修テキスト」

■ 作物を構成する元素



■ 作物に必要な養分吸収から見た分け方



「土壌の基礎知識」前田正男・松尾嘉郎共著

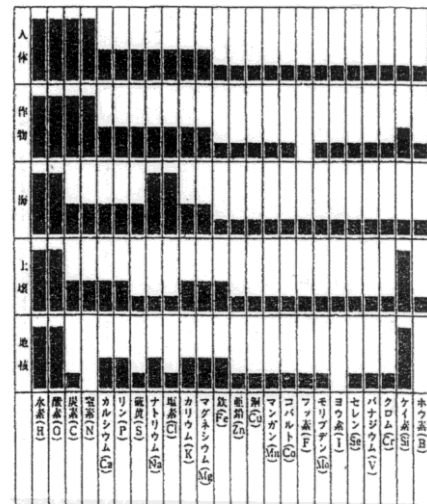
ミネラル（微量必須元素）は、人間と同様に動物も植物も自分の体内でつくることはできないので、人間は土壌に育った野菜や穀物、果物、家畜等を食しミネラルを補給し、作物は土壌からミネラルを吸収し成長しますから、その分、土壌のミネラルは減っていきます。栽培土壌に多様なミネラルが豊富に含まれていなければ、野菜や果物を多く摂ってもミネラル不足になる可能性があります。

■ 微量必須元素が動植物の健康を左右する

人間も植物もミネラルの影響を強く受けます。ミネラルが不足したりアンバランスだったりすると、生育不良で免疫力は低下し、各種病虫害に侵され易くなり農薬を使うこととなります。戦前まで、農家はし尿や残飯をたい肥として土へ還し、落ち葉も灰にして田畑に播き、ミネラルの豊富な作物を生産していました。

家庭系食品廃棄物（生ごみ）は年間約885万トン（H24年）発生していますが、その94%が可燃ごみとして焼却され、し尿汚泥も最終的には焼却され、バイオマス（生ごみやし尿汚泥、植木選定枝）が持つ多様なミネラルは埋立地に捨てられています。ミネラル不足の土壌で、化学肥料と農薬で作物を育てています。

■ 元素の含有成分比較（割合）



東北大学名誉教授山内文男作成

生ごみの扱いで注意すること・その他のメモ

■ お米のとぎ汁や野菜のゆで汁は、直接、庭木や鉢物など植物に与えましょう。

- ・ヨーグルトや牛乳の容器、納豆のカップ等のすすぎ水、卵や野菜のゆで汁にもミネラル（微量元素）が多く含まれています。

ジャガイモのゆで汁はカリウムが豊富、ビールの飲み残しも多くのリンを含有しているので、肥料代わりに少し薄めてあげるとよいです。

果物やニンジン、ゴボウなど根菜類は、皮に大切な成分を蓄えているので良く洗って皮ごと頂く。

玉ねぎの皮はなかなか分解しません。玉ねぎの皮には長寿遺伝子を活性化する「ケルセチン」が中身の数十倍含まれており、マグネシウムや亜鉛などのミネラルも中身の数倍以上含んでいるので、玉ねぎの皮はまとめて煮てスープを取りカレーなどに加え、煮出した皮は堆肥原料とするとよいです。

■ たい肥原料について

- ・堆肥原料には新鮮な生ごみを使う。くさった生ごみは腐敗菌の固まり。庭土やプランターなど容器内では高温にならないため腐敗菌や病原菌は死滅しないので、くさった生ごみやペットの糞は可燃ごみに出す。
- ・塩分の多いものはたい肥原料としない。少量であれば、煮物の汁や廃油を水分調整用（含水率60%）として基材に加えるとよい。量が多い場合は、基材がしっとりする程度に2～3回に分けて投入し、基材と液体をよく混ぜます
- ・たい肥原料は細かく刻むと表面積が大きくなり、空気に触れる面が多くなり分解が早く進みます。大きいまま入れると分解が進まず果物など中から酸素不足で腐敗します。細かく刻み、土と良く混ぜると分解が早く進み、土で覆うと土が生ごみのおおいを吸着し、ネズミ対策ともなります。
- ・生ごみを土（基材）へ埋める時、生ごみと土（基材）をサクサクと混ぜ空気（酸素）を入れる。
- ・土（基材）に穴を掘って生ごみをまとめてそのまま埋めると、中心部が酸素不足となり嫌気性微生物が活動を始め腐敗する原因となります。特に、ご飯や麺類など、基材とよく混ぜないと腐敗しやすいです。
- ・生ごみリサイクル堆肥は多種類のミネラル（微量元素）を含有するため、土壌病原抑止効果を持ち作物は健康に育つので、分解し易い野菜くずや果物の皮、茶殻だけでもたい肥化すると良いです。
- ・肉や魚など動物性タンパク質は、生のまま埋めると、蛆虫やアメリカミズアブなど虫発生の原因となります。動物性タンパク質を堆肥としたい人は6頁をご覧ください。

■ 米ぬかと微生物資材、有機質肥料

- ・米ぬかは微生物の大好物（7頁を参照）。米ぬかを入手できる人は大いに使って下さい。たい肥づくりで肉や魚を入れず、米ぬかも入手できない場合、チッソ分が不足するので有機質肥料を足すと良いです。
- ・米ぬかが入手できない場合、そして初めてたい肥化に取り組む場合、微生物資材を加えるとよいです。微生物資材としてはアーゼロンやオーレス、VS34、アスカマンなどがあります。（全国土壌改良資材協議会・微生物資材部の提供による）。微生物資材は腐敗を防ぎ、分解が早くなります。

■ 有機質肥料のミニ知識

窒素 (N) : たんぱく質形成に不可欠で茎や葉を伸ばすのに欠かせない重要な要素。欠乏すると下葉や古葉から葉色が淡くなり黄化し、生育が悪くなります。窒素が過剰なときは葉色が暗緑色になり過繁茂します。果菜類は実がつきにくくなり、根菜類は根が太りにくくなります。

リン酸 (P) : たんぱく質の主要な成分で根の発育や花や実のつきをよくします。欠乏すると下葉から赤み

がかって黄化し生育が悪くなります。

※微生物が働くと、通常、植物に吸収されにくいリン酸が吸収されやすくなります。

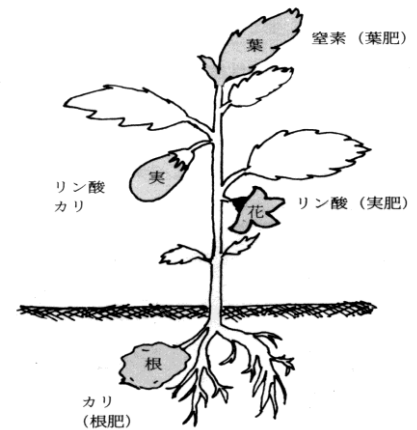
カリ(K)：栄養分の体内での合成や移動を活発にする。欠乏すると下葉から黄化したり斑点を生じます

※有機質肥料を使う場合

使う一週間前に湿った土と混合し、土に良くなじませたものを使うこと。生のまま使うと分解する際に、有害ガスが発生し、植物を痛めることがあります。

■ 有機質肥料・主な肥料の特性

	成分(%)			
	窒素	リン酸	カリ	特 性
骨 粉	3.7	22.0	0	元肥に
鶏フン	5.0	4.0	2.0	肥やけしやすい
牛フン	0.3	0.2	0.1	成分は少ない
魚粕類	6.7	4.2	0.5	緩効性
油粕類	5.3	2.3	1.0	緩効性
木 灰	0	4.0	1.0	効果大



■ プランターや植木鉢で使い終えた土のリサイクル

- ・ビニールシートの上にプランターや植木鉢の土をひろげ、土をほぐし古い根を取り除き、園芸用のふるいにかける。ビニール袋に入れ、袋をしっかり閉じ密閉し、コンクリートの上に置き、天日干しをする。その際、土は平たく均し太陽光がまんべんなく当たるようにする。真夏で日差しが強いときは、天日干しをすれば袋の中は60℃以上になるので、虫の卵や病原菌は死滅する。冬でも2週間程度太陽に当てればよい。この土にプランターで作った未熟たい肥を混ぜ込み、カキ殻石灰（農協で入手可能）を一つまみ混ぜ合わせれば新しい土として使えます。

■ プランターなどでつくった未熟たい肥の使い方

畑1㎡あたり2～3kg施す。土が痩せているときは1㎡あたり4kg程度施すとよい。プランターの場合、未熟たい肥1に対し土3～4の割合で混ぜる。あれば米ぬかを加え、土とよく混ぜ合わせる。

夏は1ヶ月、冬は3ヶ月ほど土中で熟成させてから定植・播種する。植え付け1週間ほど前に、カキ殻石灰を1㎡あたり200～500g程度、プランターの場合、一握み程度施し、土とよく混ぜる。

■ 植木鉢やプランターはウッドデッキやレンガの上に置き、通気性、排水性をよくすることが大切。

受け皿に直接鉢を置かない。通気性が悪くなり、受け皿にたまった水がカビの発生源となり、鉢底にナメクジが生息する原因となります。

- ・コンポスト容器に落葉をそのまま入れると分解に時間がかかります。落葉はポリプロピレン製の土のう袋に入れ、落葉と米ぬか（なければ土でもよい）をサンドイッチ状に入れ踏みつけ、水をしっかりかける。雨にあて常に適度な湿り気を保たせる。時々、踏みつけ葉を砕くと早く分解します。
- ・植木鉢の号数。1号は3センチ～3.3センチ。この号数は直径の長さが基準。3号は、3×3センチ～3.3センチで直径約9センチ程度。10号は、10×3センチ～3.3センチで直径約30センチ程度の鉢。
- ・ベランダで野菜を上手に育てるには、深いプランター（植木鉢）で育て、肥料をたっぷり与えること。